



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



2022年 9月

35号



第6回欧州地域会議で歓迎の挨拶をする若手世代ネットワーク会長のSylvain Andresz氏（写真提供：IRPA2022—Végel Dániel）

今号では

- 会長のブログ - 2
- IRPAブタペスト会議における IRPA 若手世代ネットワーク - 4
- 医療分野における耐容性と合理性の適用に関するワークショップ - 6
- 学会スポットライト - エジプト放射線防護学会が若手放射線防護スタッフ・研究者にアドバイス - 9
- 新しい準学会リエゾン - 11
- ICRP2021 + 1 インタビュー：JEFF DOVYAK と JOE CORTESE - 13

翻訳：森下 祐樹、保田 浩志、監修：佐々木 道也。

この”IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Yuki Morishita and Hiroshi Yasuda, and reviewed by Michiya Sasaki.

This Japanese translation of ”IRPA Bulletin” is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

7月初旬、米国保健物理学会との協力のもと、IRPAは最初のウェビナーを開催することができました。このウェビナーでは、IRPAの様々なタスクグループに焦点を当て、各グループが行っている目標や作業の要約を提供しました。このウェビナーでは、IRPAの各タスクグループの目標や作業内容を紹介しました。2度のパンデミックの後、勢いを取り戻すことが重要で、ウェビナーという形式により、多くの聴衆を集め、我々の取り組みへの関心を集めることができました（願わくは！）。このセミナーは大成功で、私の目標は2023年初めに2回目のウェビナーを開催することです。

ウェビナーに参加できなかった方のために、[YouTubeに録画をアップしています](#)。



ウイルスのせいで2年間も離れ離れになりましたが、遠隔会議やウェビナーの普及により、より自由に、より頻繁にコミュニケーションをとるための新しい方法を開発することもできました。北米とヨーロッパの大会では、初めてハイブリッド形式で協賛団体のフォーラムを開催することができました。10月中旬にアクラで開催されるAFRIRPA大会も同様に、ハイブリッドで開催される予定です。私はジュネーブで開催された第3回IAEA Occupational RP conferenceに参加し、Joseph Amoako氏およびガーナチームと会い、AFRIRPA大会の準備について話し合い、協力する機会を得ることが出来ました。



2022年10月にアクラ・ガーナで開催される次の地域大会について話し合う Bernard Le Guen氏とJoseph Amoako氏並びにガーナチーム。

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

ASFは、自国にIRPAの団体を持たないアフリカ諸国を含め、参加を希望するすべてのアフリカ諸国に開かれたものです。すでにいくつかの国から積極的な関心が寄せられています。IRPAの戦略的基盤の1つは、まだ国内学会を持たない国も含め、すべての放射線防護専門家に開かれた活動を行うことです。

ジュネーブで開催された同会議では、インドの学会の代表者とも会い、1月にムンバイで開催される地域会議について議論することが出来ました。これからの数週間、数ヶ月は、この2つの大会に加え、サンチアゴ・デ・チリでの南米大会と、とても忙しくなりそうです。



2023年1月にムンバイで開催される地域大会の準備について話し合うインド学会代表のVenkatraman Balasubramaniam氏と Bernard Le Guen氏。

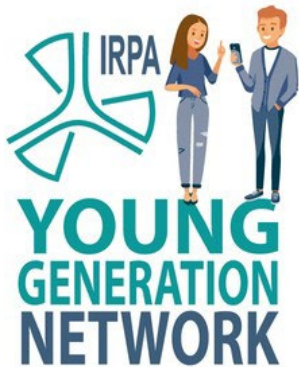
このパンデミックによって、何年もの間、あらゆる種類の物理的な会合ができなくなりましたが、同時に新しい通信手段が普及し、会議やカンファレンスなどのイベントが、移動の必要なく大勢の人々に開かれたものになったことは、少し逆説的です。私たちは、従来のワークショップやIRPA会議を超えて、より多くの情報交換を可能にするこれらの新しい方法を取り入れるべく、努力しているところです。

しかし、私は、IRPAにとって、物理的な、直接のイベントは不可欠なものであると確信しています。学会は単に発表やポスターの場ではなく、コーヒーやランチを共にしながら、旧友との再会、新しい仲間との出会い、将来の共同プロジェクトについての議論や計画などを行うユニークな機会でもあります。つまり、どんな家族でもそうですが、再会するのは気持ちがいいもので、今年も皆様にお会いできることを大変嬉しく思っています。IRPAファミリー、万歳！



IRPAブダペスト会議でのIRPA YGNと若手世代

SYLVAIN ANDRESZ AND DOROTTYA JAKAB



ブダペストで開催されたIRPAヨーロッパ地域大会は、IRPA若手世代ネットワーク（YGN）と大きな関わりを持ちました。YGNリーダーシップ委員会とブダペスト現地組織委員会の間で、大会の約1年前から企画が始まりました。エネルギー研究所のDorottya Jakabさんは、若い世代を代表して現地組織委員会に参加し、会議での若い世代のための活動を展開する上で重要な役割を果たしました。本稿では、その活動をいくつか紹介します。

a) 若手世代の来場者数

大会参加者約410名（直接参加326名、バーチャル参加83名）のうち、57名（14%）が若手専門家という適切な割合でした。主催者は、若い世代の参加を奨励し促進するために登録料の割引を行い、さらに、EURADOSなどのいくつかの専門機関が助成金や財政支援を提供しました。参加者の多くが研究発表プログラムに参加し、約150の口頭発表と110のポスター発表が行われましたが、すべて査読付きでした。

若手専門家は、参加者としてだけでなく、組織委員会や科学委員会のメンバーとしても参加しました。IRPA YGNのメンバーは、特別な科学委員会の活動に招待され、それぞれの分野で提出されたアブストラクトの審査と受理、研究発表プログラムの作成をサポートしました。

IRPA YGNリーダーシップ委員会の出席者は、専用の会議を開催するほど多くはありませんでしたが、それでもこの大会は、すでにIRPA YGNと連絡を取っていた各国の若手世代のネットワーク（具体的には：イタリア、ベルギー、ルーマニア、イギリス、オーストリア）や、新しいネットワーク（サウジアラビア）とのネットワークや会議の機会を提供するものでした。

IRPA YGN Leadership Committeeの活動と2022-2024年の戦略アジェンダが、Forum of Associate Societies（5月30日）およびExecutive Council Meeting（6月1日）で発表されました。

b) IRPA YGN オープニングセレモニーにて（5月30日）

開会式では、IRPA YGNの議長が、ネットワークの使命と目的、その役割の重要性、若い世代を支援することの重要性を提示することを目的に、短い歓迎の挨拶を行いました。



IRPAブダペスト会議でのIRPA YGNと若手世代

SYLVAIN ANDRESZ AND DOROTTYA JAKAB



オープニングセッションでYGN代表として挨拶をするSylvain Andrezs氏（写真提供：IRPA2022—Végel Dániel）

c) 若手世代のためのキャリアガイダンス・ワークショップ（5月31日開催）

当初、若い世代のキャリアガイダンス・ワークショップが提案されましたが、他の仕事との兼ね合いで、最終的に必要なリソースを確保することができませんでした。このワークショップは、若手専門家が放射線防護の異なる分野の専門家とキャリアについて話し合う機会となるはずだった。このようなワークショップが次回のIRPA会議で開催されることを願っています。大会主催者は、これまでに策定した計画について、形式、参加者案、扱うトピックなどを含め、関心のある方と喜んで共有したいと思います。

d) リフレッシュコース（6月1日～3日）

若手世代だけを対象としたものではありませんが、午前中に行われた再教育コースは、若い専門家や科学者が特定の分野の知識を得たり、それぞれの分野の最新動向を知ることによって専門性を更新・拡大するための機会を提供するものでした。再教育コースは、2つのレベルが用意されました。基礎コース4回と上級コース5回です。基礎コースのテーマは以下の通りです。

- 放射線の有害性と計算方法
- 放射線防護教育にシステムティック・アプローチをどう生かすか？
- 放射線防護研究の課題とその放射線生物学的基盤
- 放射線診断における患者の線量評価：モダリティ別の患者から特定の測定基準まで

e) ヤングサイエンティスト・プロフェッショナルコンペティション（6月1日～3日）

このコンペティションは、2021年夏に大会ウェブサイト、欧州IRPA Associate Societies (AS)、IRPA YGNチャンネルを通じて発表されました。このコンペティションへの参加は、ASからの正式な推薦を受け、アブストラクトに続いてフル論文を提出し、口頭発表することが条件とされました。11カ国から15人のASが推薦され、そのうち13人が会議に出席しました。2021年末までに、Dorotyyaと組織委員会は、多くの経験を網羅し、若い世代の代表を含む9名の国際審査員を設置しました。審査員は特に効率的に競技者の評価と受賞者の選定を行いました。



IRPAブダペスト会議でのIRPA YGNと若手世代

SYLVAIN ANDRESZ AND DOROTTYA JAKAB

この活動から得られたグッドプラクティスのうち、共有できるものを紹介します。

- コンペティションのための特定のセッションを設けるのではなく、研究分野に関連するセッションで、サイエンティフィック・プログラムに組み込まれた形で発表が行われました。プログラムブックでは、若手科学者の発表が明るい色で強調されています。
- 論文と口頭発表の両方を対象とした評価フォーム*を作成しました。審査員は、プレゼンテーションの最中に、あるいはライブで参加できない場合は録画したものをもとに、評価を行いました。その結果をDorotyaが集計し、最高得点に対する審査員の得点の比率から、各コンペティターの平均得点を算出しました。(この評価によって、審査員の一部が評価で省略した可能性のある点数の欠落による影響を避けることができた)。
- 特に、若手研究者の研究への貢献度を評価し、**Authorship Statement***を作成しました。この**Authorship Statement**を再利用する場合は、各パートの貢献度(%)を若手研究者に大まかに示してもらうことが推奨されました。
- 審査委員会は、受賞者を決定するための議論の中で、評価票の正確さを利用して、研究、論文、口頭発表の各コンペティターが達成した平均点に差をつけました。
- 審査員の評価により、上位3位までが表彰されました。また、聴衆はカンファレンスアプリケーションを通じて好きな発表者に投票することができ、オーディエンスアワードも授与されました。
- 6月3日、閉会式直前にコンペティション授賞式が行われました。賞金(大会基金と特別財団賞から拠出)に加え、1位にはIRPA16への参加費が与えられました。また、各賞の受賞者には賞状と記念品が贈られました。



ヤングサイエンティスト・プロフェッショナルコンペティションの
全参加者による表彰式(写真提供: IRPA2022—Végel Dániel)

*注: コンペティション評価書とオーサーシップステートメントの
コピーは、ご希望により著者から入手可能です。



医療現場における耐容性と合理性の適用に関する ワークショップ

JF LECOMTE, V. CHAMBRETTE & B LE GUEN

2022年6月20日～21日、医療分野における耐容性と合理性の概念の適用について意見交換を促進し、理解を深めるためのバーチャルワークショップが約20カ国から40名近くが参加して開催されました。このワークショップは、IRPAと国際放射線防護委員会（ICRP）が共同で開催したものです。前半の半日にはいくつかのオンライン講演が行われ、後半の半日は3つのワーキンググループで行われました。

背景

放射線リスクの合理性と耐容性のモデルは、ICRPの原則を実施するための概念的枠組みです。放射線防護システムの倫理的基盤に関する最近の動向は、この枠組みの意味、役割、倫理的価値観に照らした実際の実施について再検討することを求めています。2019年、ICRPは専門タスクグループ（TG114）を設置し、Publication 103を統合し明確にするために、合理性と耐容性に関する歴史的な視点および現在の視点を再検討し、将来の一般勧告を策定するために必要な考察と基礎を準備しました。



ICRP タスクグループ内では、医療分野における合理性と耐容性の適用が議論されてきました。医療における患者の放射線防護を示す医療の質の3つの主要な領域が検討されました。

- 適切性・妥当性
- 患者の線量管理
- 患者中心主義

医療現場における耐容性と合理性の適用に関する ワークショップ

JF LECOMTE, V. CHAMBRETTE & B LE GUEN



目的

ワークショップのディスカッションで感じたことを以下にいくつか述べます。

- WHOの健康の定義にはwell-beingが含まれている：正当性とリスクの関係を確立し、well-beingに応じて治療を患者に適応させることが必要である；
- リスクの算出には個人の特異性（性別、年齢、体格など）を考慮しなければならない。したがって、リスクの許容範囲は個人によって異なります。
- 患者さんから見て、どの程度のリスクが耐えられないと判断されるのかを知ることが重要です。その答えは、医師とは異なるかもしれません。患者の見解は、医療被ばくのリスクとベネフィットがどのように議論されてきたかによります。
- 医療行為が正当化されれば、それは容認される。正しく実行されれば、それは合理的となる。ただし、患者には情報を提供し、関与してもらわなければならない。
- 倫理的価値観の尊重は不可欠であり、特に尊厳、透明性、患者に対する医師の説明責任と責任感が重要です。これらの概念は、国や状況によって異なる場合があります。

今回検討・反省された点は、いずれもICRPのTG114の中で再度取り上げられ、多くの議論がなされるでしょう。



学会 スポットライト

エジプト放射線防護学会 - 若手放射線防護スタッフ・研究者 へのアドバイス

MOHAMED AHMED MAHMOUD GOMAA

この記事では、私の経験を振り返り、**Health Physics**誌の最近の号をお勧めします（参考文献として含まれています）。最初のポイントは放射線防護について、2番目は**ICNIRP**の出版物についてです。

ロンドン大学博士課程在学中の経験から、私は毎週ロンドン大学図書館の本館を訪れていました。昼休みの時間を利用して、物理学の専門誌の最新号や、国際機関や国内機関の出版物に目を通したものです。大学図書館は非常に貴重な情報源ですので、若い研究者の皆さんには、定期的に大学図書館に足を運ぶことをお勧めします。

私は中性子遮蔽を研究テーマにしていたので、中性子源、中性子検出、中性子やその他の電離放射線と物質との相互作用、中性子断面積測定、厚い遮蔽体における減衰といったトピックを定期的に閲覧していました。さらに、書店に足を運び、物理学のテキストやその他の関連書籍を見ていました。

ロンドンでの勉強を終えてカイロに戻ると、**IAEA** の出版物がすべて揃っているエジプト原子力庁の図書館を訪れました。また、エジプト原子力科学・応用学会、核物理学学会、放射線科学・応用学会などのエジプトの学会の会員にもなりました。さらに、英国物理学学会、保健物理学学会、米国原子力学会、国際放射線物理学学会、**IRPA**などの国際的な学会にも所属するようになりました。これらの学会に参加することで、最新の放射線物理学や放射線防護に関する情報を得ることができました。従って、若い放射線防護の学生や専門家は、地域や国際的な学会に参加することを強くお勧めします。

また、保健物理学学会でも素晴らしい経験をさせていただきました。私は**1980年**に入会したばかりですが、**1970年**から**Health Physics**誌に自分の研究を掲載しています。さらに、親友の故**Dick Griffith**が編集者だったころには、「**Notes from Egypt**」を送っていました。



学会 スポットライト

エジプト放射線防護学会 - 若手放射線防護スタッフ・研究者 へのアドバイス

MOHAMED AHMED MAHMOUD GOMAA

最近、*Health Physics*誌で2つの重要な出版物に出会いました。

まず、2022年7月号に掲載された本学会の年次大会の要旨は、ポスター19件、口頭発表202件、合計221件で、より幅広いトピックをカバーしています。若い放射線防護担当者や研究者がこれらの抄録に目を通すことは、放射線防護のあらゆる側面について最新の情報を得ることにつながるため、必ずお勧めします。特に、**Early Career Professional (ECP)**セクションに焦点を当てたトピックがあります。このセクションでは、「ECPでの1日 (A day in life of an ECP)」というタイトルで、各分野の専門家によるいくつかのプレゼンテーションが発表されました。

参考文献: Health Physics Journal, Vol 123, No 1, July 2022, HPS Abstracts, 67th Annual Meeting, 17-21 July 2022, Spokane, WA, USA pages 34-94.

次に、2020年6月号は非電離放射線を主に取り上げた特集号でした。

参考文献: Health Physics Journal, Vol 118, No 5, May 2020, and International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP), Non-Ionizing Radiation Protection Guidelines and statements, pages 477 to 580.

以下は、私が優れたリソースと認めたいいくつかの論文のタイトルです。

1. 非電離放射線防護のための原則。
2. 電磁界 (100kHz~300kHz) への曝露を制限するためのガイドライン。
3. ICNIRP 注記: 2019年に発表された2つの無線周波数電磁場動物発がん性研究の批判的評価。
4. 時間的に変化する電界及び磁界 (1Hz~100kHz) への曝露を制限するための指針」に関連する知識のギャップ。
5. ICNIRP レーザーガイドライン2013年版へのコメント。
6. 発光ダイオード (LEDS) ; 安全性への影響。
7. 美容目的での非電離放射線への意図的な人体被ばく。
8. 波長180nm~1,000nmのレーザー放射の曝露限界に関するICNIRPガイドライン。正誤表。

最後になりましたが、若い放射線防護スタッフ、研究者の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

Adelene Gawさん、ありがとうございます。

私たちの良き友人であり、大切な同僚でもある**Adelene Gaw**には、他の仕事に専念するため、準学会リエゾンのポジションを離れると告げられ、私たちの気持ちは悲しみでいっぱいです。**Adelene**は、世界中の関連団体から記事やプロフィールを集め、会報を多言語化するために翻訳チームを説得し、私たちの仕事が軌道に乗るように様々な委員会やタスクグループの皆とカナダ放射線防護学会との間で連絡を取り合い、本来の業務に加え、それ以外の生活や魅力ある放射線防護の世界におけるあらゆることで、**IRPA**を支援してくれました。

Adelene は、これらすべてを効率よく、有能に、そして忍耐強くこなし、切れ味の悪いコメントや心ない言葉を口にすることはありませんでした。私たちは、**IRPA**のメッセージを会員や世界によりよく伝えるために、長年にわたり献身的に働いてくれたあなたに感謝し、深くお礼を申し上げるとともに、心からお祈りしています。

幸運なことに、**Adelene**は、退職する前に、後任の**Michèle Légaré**を見つける手助けをしてくれました。**Michèle**は現在自分が引き継ぐ仕事の大変さを実感しています。**Adelene**と**Michelle**の2人の活躍を祈っています。

ようこそ、**Michèle Légaré**さん。

仕事、家庭、その他、ご自身のことについて教えてください。

私は、カナダのオタワにあるオタワ病院に勤務しています。幸いなことに、放射線・レーザー安全部には医療保健物理士と医療放射線技師からなる素晴らしいチームがあり、私は部長兼コーポレート**RSO**（放射線安全管理者）兼**LSO**（レーザー安全管理者）を務めています。私たちは、イノベーション・品質ポートフォリオに属しており、新しい方法や放射線安全プログラムを改善するための

パートナーシップを見つけるのが好きな私には最適なところですよ。私は、リーダーを育て、チームとして目標を達成することに誇りを感じています。家庭面では、家族と一緒に過ごすこと、湖に行くこと、ウォータースポーツを楽しむことが好きです。旅行や多様な文化について学ぶことが好きで、それが様々な言語を学びたいという欲求を高めている理由かもしれません。私はフランス語と英語に堪能で、スペイン語は会話レベル、イタリア語は勉強中です。



新しい準学会リエゾン

放射線防護の仕事をはじめたきっかけは？

国防省の学生として核不拡散に関するプロジェクトに携わっていたとき、保健物理学という分野に出会いました。物理学の学士号を取得した後、カナダのマクマスター大学の保健物理学修士課程に入学しました。父ががんで亡くなったばかりだったので、放射線の安全な利用を確保するために自分が貢献できると感じ、有意義でした。卒業研究では、オンタリオ発電所、チョークリバー研究所、カナダ原子力安全委員会など、さまざまな組織に関わりました。そこから私は関連の仕事に夢中になり、カナダ放射線防護学会（CRPA）に長年にわたってさまざまな役割で貢献するようになりました。

IRPA Bulletinの準学会リエゾンの役割に志願されたきっかけは？

CRPAの国際リエゾン委員会の委員長を引き受けることになったとき、私は喜んで引き受け、IRPAの関連学会との連携が自然に行われるようになったと思いました。

具体的に達成したい目標やマイルストーンがあれば教えてください。

それぞれの学会の戦略的計画に整合性があることを見出し、会員に提供するものを継続的に改善し、向上させるために、私たちのつながりを活用します。ここ数年、世界中で起きている出来事に誰もが影響を受けており、私たちのネットワークを活用して学びを共有することができることを示しました。

その他、読者へのメッセージをお願いします。

私のドアは常に開いており、読者や同業者から、どのように協力できるかを聞くのが楽しみです。バンクーバーで開催されるCPRA ICRP 21+1合同会議に参加される方は、ぜひ私をお目にかかりましょう！直接お話できることを楽しみにしています。



ICRP 2021+1インタビュー： JEFF DOVYAK & JOE CORTESE, CRPA

ICRP 2021+1は、ブリティッシュコロンビア州バンクーバーで開催され、ホストは

- 国際放射線防護委員会（ICRP）、
- カナダ原子力安全委員会（CNSC）、および
- カナダ放射線防護学会（CRPA）

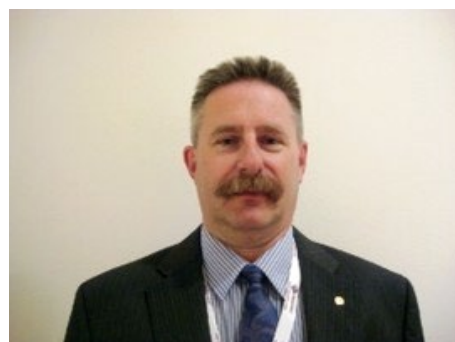
になります。

今回は、CRPAのプログラム委員であるお二人にインタビューを行いました。CRPAの元会長であるJeff Dovyakは、プログラムのいくつかの要素について、バンクーバー出身のJoe Corteseは、彼の故郷について、また、バンクーバー滞在中に楽しめるアクティビティやアトラクションについて話してくれました。

Jeff Dovyak氏（プログラマー）インタビュー

プログラム委員として、ICRP 2021+1での参加者の楽しみは何だと思えますか？

参加者は、多様な解決策（そしておそらく自国の放射線防護コミュニティで議論されていない問題）を聞くことができることを楽しみにしていることでしょう。



個人的に今回のイベントで一番楽しみにしていることは何ですか？

これまでカナダ、そしてアメリカの放射線防護専門家としか会ったことがなかったので、いろいろな国の放射線防護専門家に会えるのは楽しみです。

どのようなトピックが最も議論を呼ぶと思えますか？

どのトピックも多く議論を巻き起こすことを期待しています。シンポジウムのテーマが「放射線防護一次世代」であることから、「若い専門家の参加」セッションや学生・若手科学者の論文コンテストが注目されることを期待しています。

ICRP 2021+1への出席を奨励するために、何か具体的に言いたいことはありますか？

この種のICRPシンポジウムがカナダで初めて開催されることを考えると、カナダの放射線防護専門家がバンクーバーに来て海外の仲間と交流することをお勧めしますし、他の国の放射線防護専門家がICRP2021+1に出席してカナダの仲間と交流することをお勧めします。



ICRP 2020+1インタビュー： JEFF DOVYAK & JOE CORTESE, CRPA

Joe Cortese氏（現地プロモーション）インタビュー

個人的に今回のイベントで一番楽しみにしていることは何ですか？

次回、バンクーバーで開催される会議の運営をお手伝いする機会を得て、大変うれしく思っています。私の故郷で旧友や同僚の皆さんをお迎えし、私が世界で最も好きな街を皆さんと共有することが待ち遠しいです。このような形で、全国の仲間と交流し、笑い合い、学び合うことができるのは、あまりにも久しぶりのことです。今年はICRPも参加し、世界中の仲間と交流することができます。



プログラム委員会のメンバーとして、**ICRP 2021+1**での参加者の楽しみ方を教えてください。今年の会議のテーマは、「放射線防護一次世代」です。キャリアを前進させ、現在の実践を改善し、後継者への道を開くことは、今年の会議から得られる主題のいくつかです。11月5日、6日には、継続教育セッションのエキサイティングなラインアップが予定されています。また、この秋のバンクーバーの美しさを体験することもできます。

ICRP 2021+1のためのツアーはありますか？

カナダの粒子加速器センターである**TRIUMF**を訪問するツアーが計画されています。"ツアー参加者は、陽子が水素原子に結合した状態からターゲットや検出器に到達するまでの経路をたどりながら、**TRIUMF**の多くの実験や施設を直接体験することができます。"

私はこのツアーを実際に体験し、その魅力を実感しています。参加ご希望の方はお早めにお申し込みください。

どのような交流会が行われているのでしょうか？

ガーラレセプションは、11月9日（水）の夜、ノースショア山脈を背景にバラード入り江の絶景が楽しめるバンクーバー・コンベンションセンターの美しいボールルームで開催されます。

参加者がバンクーバーを散策する場合、ぜひ訪れてほしい場所はありますか？

スタンレーパークのすぐ近く、バンクーバーのダウンタウン中心部に近い場所で開催されます。このイベントのロケーションは完璧です。バンクーバーには、世界有数のハイキングコース、バンクーバー美術館、ヴァンドゥーゼン植物園があります。11月5日には、参加者が入れるバンクーバー・カナックスとナッシュビル・プレデターズによる**NHL**の試合も行われる予定です。あなたがバンクーバーに滞在する間、私たちは多くのものを提供できます。





visit
www.afrirpa06.org



AFRIRPA06

6th African Regional Congress on Radiation Protection

ACCRA - GHANA
 10 - 13 October, 2022

Theme: Embracing Radiation Protection Education and Safety Culture

Congress Highlights

- ✓ 4 days of scientific presentations
- ✓ Refresher Courses
- ✓ IRPA Associate Societies Forum
- ✓ Social Exhibition
- ✓ Young scientists and radiation protection professional awards

REFRESHER COURSES

- » Education and Training: Integration of Radiation Protection in Medical and Dental Curricula
- » Safety Culture
- » Measurements of Radiofrequency Fields
- » Radiation Protection Programme in Newer Digital Technologies and Interventional Radiology
- » NORM Characterization
- » Radioactivity in Food and Water



GARP
 Ghana Association for Radiation Protection



IAEA
 International Atomic Energy Agency



IRPA
 International Radiation Protection Association



WHO
 World Health Organization



LA Palm Royal Beach Hotel
 Labadi, Accra - Ghana



(233) 54 357 7726
 (233) 24 497 2758
 (233) 24 310 2487



info@afrirpa06.org
www.afrirpa06.org



XII CONGRESO REGIONAL DE SEGURIDAD RADIOLÓGICA Y NUCLEAR

PROTECCIÓN RADIOLÓGICA: *ADAPTÁNDONOS A NUEVOS ESCENARIOS*

X CONGRESO REGIONAL IRPA

ENCUENTRO IBEROAMERICANO DE PROTECCIÓN RADIOLÓGICA

SANTIAGO DE CHILE 2022

Centro de Extensión de la Universidad Católica de Chile - Desde 23 al 27 de Octubre

ÁREAS TEMÁTICAS

PROTECCIÓN RADIOLÓGICA

INNOVACIÓN Y TECNOLOGÍA

CULTURA Y SEGURIDAD

REGULACIÓN Y RECOMENDACIONES

FECHAS IMPORTANTES

INSCRIPCIONES HASTA EL 23 DE OCTUBRE DE 2022

ENVÍO DE RESÚMENES HASTA EL 30 DE ABRIL 2022

INFÓRMATE EN WWW.SOCHIPRA.CL/CONGRESO-REGIONAL-SANTIAGO-DE-CHILE-2022



AOC RP6

6th ASIAN AND OCEANIC CONGRESS FOR RADIATION PROTECTION (AOC RP6)

About Conference

The 6th Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOC RP6) will be held at Mumbai, India during 07 - 11, February 2023. The Indian Association for Radiation Protection (IARP) has been serving the national and international scientific community for the past 55 years by organising international, national and regional conferences and workshops in the field of radiation protection and safety. IARP is proud to host AOC RP6 for the first time in India and feels happy to welcome all the participants from around the world. More than 500 delegates including eminent international and national radiation protection professionals are expected to participate in the congress.

**07-11
February
2023**

Nehru Centre, Mumbai, India

For more details and latest updates please visit

www.aocrp6.com

Congress Theme

Radiation safety is given highest priority at different stages of operation in nuclear, medical and industrial applications of radiation technology. In the past decade, variety of systems and methods have been developed in the field of radiation protection and surveillance including release of new ICRP publications. In view of these developments, AOC RP6 is devoted to the congress theme of "Radiation Protection and Surveillance in Nuclear, Medical, Industrial Facilities and the Environment". This congress is a forum for all the stakeholders including researchers and policy makers to discuss various safety issues related to the developments in radiological and environmental safety of nuclear and radiation facilities.

Call for Papers

Scientific Programme Committee of the 6th Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOC RP6), cordially invites you to submit abstract to AOC RP6 to be held on 07-11, February 2023, in Mumbai, India. All abstracts must be submitted electronically through the website only (<https://www.aocrp6.com/>). Abstracts submitted via e-mail, fax or regular mail will neither be accepted nor acknowledged. All submitted abstracts will be reviewed and assigned to appropriate session. Notification on acceptance will be sent to the submitter by email.

Important Dates

Abstract submission starts
10/05/2022

Last date for abstract submission
30/06/2022

Intimation of acceptance of abstract
15/09/2022

Registration begins
5/07/2022

Early bird Registration & accommodation request (up to)
15/10/2022

On the spot registration allowed (up to)
06/02/2023

Contacts

Dr. M. S. Kulkarni

Convenor, Congress Organizing Committee, AOC RP6
Head, Health Physics Division
Bhabha Atomic Research Centre
Mumbai, Maharashtra, India.
Email: aocrp6@gmail.com | Phone: +91 22 25595076
Fax: +91 22 25505313 | Mobile: +91 9969961663

Dr. S. Murali

Secretary, IARP
Radiation Safety System Division
Bhabha Atomic Research Centre
Mumbai, Maharashtra, India.
Email: mrliyengar@gmail.com | Phone: +91 22 25593774
Mobile: +91 90047 73341 (WhatsApp only)
Website: <https://www.iarp.org.in>

Outline Structure & Topic Areas

The scientific programme of the congress will include keynote addresses, Panel Discussions, Invited Talks, Proffered Papers, Posters and Technical Exhibition. The major scientific thematic areas to be covered at the congress are listed below:

1. Foundation Topics on Radiation Protection Philosophy and Risk Estimates
2. Radiation Safety and Protection in Nuclear Facilities
3. Radiation Safety and Protection in Medical & Industrial Sectors
4. Radiation Dosimetry (External, Internal and Biological)
5. Nuclear Instrumentation and System Development
6. Environmental Monitoring and Assessment
7. Existing Exposures
8. Emergency Preparedness and Response
9. Regulatory Framework: System of Protection, Standards and Regulation.

Guidelines for Abstract Preparation and Submission

Contributions should be brief with relevant scientific/technical details in the form of an extended abstract of one page, not exceeding 500 words. The template of the abstract can be downloaded from the AOC RP6 website. The contribution must be submitted ONLINE (electronically) through the abstract submission facility of AOC RP6 website (www.aocrp6.com) before the closing date. Abstract submitted for presentation in the congress will be reviewed independently by the members of the scientific programme committee and experts in the field. The intimation will be sent to the authors post the acceptance of abstracts. Last date for abstract is 30/06/2022. The acceptance of the abstracts will be intimated before 15/09/2022.

Registration Details

Registration is pre-requisite for attending the conference and presenting a paper. Request for registration will be taken through online form available on website from 15th July 2022 onwards. Registration fee payable is listed below:

Type of Registration	Amount payable (INR)	
	Early bird up to 15/10/2022	Late or on the spot 06/02/2023
IARP Member	10000	12000
Senior Citizen (IARP Member)	5000	5500
Non IARP member	15000	15500
Accompanying Person	8000	8500
Student delegate (Indian)*	5000	5500
Trade delegate (Indian)	20000	25000
Foreign delegate	600 \$	650 \$
Student delegate (Foreign)	200 \$	250 \$

* To encourage the participation of young students, financial assistance to the deserving under graduate / post graduate students of Universities will be provided subject to the availability of funds. Certificate from Head of the Institute/Department is mandatory.

Publications

Book of Abstracts will be published during AOC RP6 Congress. Manuscripts selected by our Scientific Programme Committee will be published in a peer reviewed journal.





共有したいニュースをお持ちですか？cop@irpa.net までお送りいただければ、IRPA NewsとIRPA Bulletinで紹介いたします。通常、会報の記事は200～300単語と画像になります。

学会スポットライトでは、アソシエイト・ソサエティからの最新情報を常時募集しています。あなたの学会の近況をお聞かせください。会議、カンファレンス、一般向けイベントや有益なニュースはいつでも歓迎です。

出版物に関するあなたのIRPA委員会

IRPAコミュニケーション・オフィサー：Dave Niven

会報編集部：Dave Niven

準学会リエゾン：Michèle Légaré

ウェブサイト管理者：Dave Niven & Chris Malcolmson

ソーシャル・メディア・マネージャー：Sven Nagels & Chris Malcolmson

Media Reviewers：Sven Nagels, Young-Khi Lim, 藤田博喜

Proceedings Advisor：荻野晴之

